

# お薬のしおり

## 風しんの流行とワクチン No.133 (H25.3)

東京医科大学病院 薬剤部

東京都内において、昨年の夏より風しんの流行が続いています。昨年は2,353例の報告があり、過去5年間では最も多い報告数となりました。このうち、首都圏や近畿地方での報告が多く、患者の7割以上は男性で、そのなかでも20代～40代が8割を占めていました。また、患者の多くは予防接種歴がないもしくは確認できない方となっています。今年の2月以降、患者報告数が急増し、週当たり報告数が100名を超える状況が続いています。そこで今回は、風しんとその流行対策としてワクチンを中心にをご紹介します。

◇風しんとはどのような病気か？発症時期・症状は？；風しんとは風しんウイルスによる急性の発疹性感染症で、春先から初夏にかけて流行が多くみられます。潜伏期間は2～3週間で、主な症状は発疹、発熱、リンパ節の腫れなどが挙げられます。従来、集団生活が始まる1～9歳頃（1～4歳児と小学校低学年）に多く発症がみられましたが、近年は成人男性の発症が多くなっています。風しんウイルスは患者さんの咳やくしゃみなどの飛沫によって他の人へうつります。発疹の出る2～3日前から発疹の出た後の5日くらいまでは感染力があると考えられています。しかし、感染力は麻疹（はしか）や水痘（水ぼうそう）ほどは強くないとされています。

◇風しん患者の多くが成人男性であるのはなぜか？；風しんワクチンの定期予防接種は、昭和52年より開始されましたが、当時は先天性風しん症候群の発生を防ぐことを目的に、中学生の女子のみが対象であったため、現在、30代後半以上となる男性は予防接種の機会がありませんでした。また、平成7年からは男女ともに接種対象となりましたが、現在の20代後半から30代前半の男性の接種率が低いことが要因の1つと考えられます。

◇風しんの治療は？；風しんに対する特効薬はなく、症状をおさえるための治療が中心となります。しかし、風しんの症状は子供では比較的軽いのですが、成人がかかると発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、関節痛がひどいこと



が多いとされています。

◇風しんの予防接種はどのように受けたら良いか？；風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病となっています。2005年度までは、生後12ヶ月から90ヶ月未満に1回の接種でしたが、2006年度からは1歳児と小学校入学前1年間の幼児に、原則的に麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）を2回接種されるようになりました。

しかし、2007年から10～20代を中心とする麻しんの流行を受けて、2008年度～2012年度までの5年間は、上記の2回の時期に1回のみの方を対象に、中学1年生、高校3年生相当年齢の者に定期接種として、2回目のMRワクチンを接種することになりました。当院で使用している風しんワクチンは、乾燥弱毒生風しんワクチン「北里第一三共」と、麻しんと風しんの混合ワクチンであるミールビックの2種になります。

◇風しんワクチンの副反応は何かがあるか？；接種後の副反応は非常に少ないワクチンですが、これまでの小児を対象にした調査によると、接種後5～14日に発熱、発疹、リンパ節の腫れが報告されていますが、数日から1週間程度で治癒します。

◇妊娠出産年齢層の女性に風しんワクチンを接種してよいか？

妊娠していない時期（生理期間中又はその直後）にワクチン接種を行い、その後2ヶ月間避妊するよう注意する必要があります。また、風しんに対する免疫を持たない女性が妊娠中に風しんに感染すると、先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。

先天性風しん症候群とは、胎児が風しんウイルスに感染し、白内障、先天性の心疾患、難聴、精神や身体の発達の遅れなどの障害のことをいいます。この先天性風しん症候群が起こる可能性は、風しんにかかった時期により違いがあり、特に妊娠初期（12週まで）が可能性が高いことが認められています。このため、特に妊娠中の方は、風しんに感染しないように注意することが必要であり、周りの家族からの感染や職場での感染にも注意が必要です。定期接種の時期を過ぎてしまった方においても、風しんにかかったことがない、風しんワクチンを受けたことがない方は、妊婦さんを守る、重い合併症を防ぐという観点から、男性も女性も風しんワクチンの接種が強く勧められています。何かわからない点やお困りの点がある際には、医師、薬剤師など医療スタッフへご相談ください。